

2019年度 大阪教育大学男女共同参画推進事業 活動結果報告

(代表者)	家政教育講座	教授	井奥	加奈
(分担者・協力者)	家政教育専攻	教授	中田	忍
		准教授	小崎	恭弘
		准教授	山田	由佳子
	技術教育講座	准教授	成田	一人

1. 目的

家庭科は1974年に高校家庭科が女子必修科目として位置づけられて以来、女子のみの科目というイメージが強い教科である。逆に技術科は男子のみのイメージが強く、教員も家庭科はほぼ全員が女性教員、技術科は男性教員であった。それは、1994年に高校家庭科の男女必修化が実施された後もイメージが払しょくされずに残り、本学家政教育講座や技術教育講座の学生における男女比のアンバランスにつながっていると考えられる。このようなジェンダーによる思い込みや男女役割分担意識に基づくような偏見は、社会に出ようとする若い人々（セクシャルマイノリティの人も含む）の多様な可能性を狭めることになりかねない。そこで、本学家政教育講座および技術教育講座の卒業生の協力を求め、家庭科や技術科の教員がジェンダーフリーな教員であることを訴え、受験生の拡大と男女共同参画社会の構築に結びつけることを目的として、パンフレットやWEBサイトを作成した。

2. パンフレットの作成

2-1 本学家政教育講座および技術教育講座卒業生へのインタビュー

表1に過去5年間における入学者数の男女の内訳を示した。家政教育講座の学生は大半が女子学生であるが、一部には男子学生もいる。また、技術教育講座の学生のうち、平均10.6%は女子学生であった。

表1 家政教育・技術教育講座における入学者の男女比

入学年度	技術教育講座入学者数(人)			家政教育講座入学者数(人)						
				小中教育専攻		中等教育専攻		合計		
	男	女	合計	男	女	男	女	男	女	総合計
2015	10	1	11	0	10	0	6	0	16	16
2016	8	1	9	0	10	1	5	1	15	16
2017	10	0	10	0	12	2	7	2	19	21
2018	8	2	10	0	8	2	6	2	14	16
2019	6	1	7	2	10	0	8	2	18	20
総入学者数	42	5	47	2	50	5	32	7	82	89
割合(%)	89.4	10.6	100.0	3.8	96.2	13.5	86.5	7.9	92.1	100.0

ジェンダーフリーな教員を目指すロールモデルとして、少数ではあるが、家政教育講座の男子卒業生で現在中学・高校の教員として勤務している者5名、技術教育講座の女子卒業生で現在中学・高校の教員として勤務している者3名を選んだ。次に、彼らに、①本学入学の動機、②大学

生活での感想、③仕事の状況、④後輩へのメッセージ、をインタビューした。なお、インタビューする卒業生には、技術科と家庭科の教員免許を持つ者や工業高校でデザインの教諭をしている者（注釈：中等教育専攻技術教育コースで取得可能な工業科の免許でデザインを教えることができる）を含めることとし、「家庭科の先生」「技術科の先生」のイメージを広げられるよう配慮した。さらに、家政教育講座においては、5名のインタビューのうち、1名を家政教育講座のパンフレットに、1名は家政教育講座のWEBサイトに掲載することとし、セクシャルマイノリティに属する受験生も含め、幅広く受験生に向けた広報活動の資料とすることとした。インタビューはメールやSkype、電話、学会などを活用した。

2-2 パンフレットについて

本学への志望動機として、教科そのものに対する興味関心や少人数クラスによる指導、高校での進路指導が挙がっていた。また、男女比が均等でない所属学生のコミュニティにおいても特に問題なく充実した大学生活が過ごせたこと、卒業後も特にジェンダーをあまり意識することなく教員としての職務を遂行していること、現場で授業をすることで、男性だからこそ教科（家庭科）の学びなどがより深まること、なども挙がっていた。専門の授業になると男女比のバランスが均等でない場合があるものの、教職科目や一般教養科目などのように、他の専攻、コースに所属する学生と一緒に受講する科目も多いので、気兼ねなく学べるのではないかと推察している。

このようなインタビュー結果を踏まえ、別紙のようなパンフレットを作成した。卒業生であることや現職教員であることが分かるように、卒業年度や所属・担当教科を紹介し、男女共同参画事業の成果物であることを明記した。さらに、個人情報もあることから、WEBサイトには掲載せずにパンフレットでのみ配布することとした。

できたパンフレットは、次年度以降、大学案内とともに主な高校に配布したり、大学説明会やオープンキャンパスなどで配布したりする予定である。過去に技術教育に在籍していた教員からは、自分の進路について考え始める中学生にも見てもらえるように配慮してはどうか、というコメントをいただいた。このようなパンフレットは他では見ないパンフレットで、男女共同参画社会の構築には有用であると考え。幅広く家庭科や技術科の教員がジェンダーフリーであることを紹介し、両講座の受験者数確保に勤めたい。

2-3 家政教育講座 WEB サイト・講座用パンフレットについて

家政教育講座では、教員の異動等にともない、現在家政教育コース広報用パンフレットを改訂している。教員組織の改革やカリキュラムの改訂などを踏まえる予定で、現時点ではまだデザインが確定していない。本パンフレットにも男女共同参画事業の成果物であることは明記する。今後、4月以降に教員組織改革等がほぼ終わった後で6月初旬に最終稿を入稿し、大学案内とともに主な高校に配布したりオープンキャンパスで配布したりすることなどを予定している。

WEBサイトもセキュリティ確保の点でCMS等をアップデートするため、4月1日以降のリニューアルを目指して現在構築中である。WEBサイトに関しては、個人情報保護の目的で、氏名や顔写真などは入れずにインタビュー記事を紹介するが、インタビュー記事末尾に男女共同参画事業の成果物である旨明記する。WEBサイトでは、男女比がアンバランスな教科における苦勞など、よりリアルな教員の実態を具体的に紹介したい。

3 成果等

本事業の成果物である広報用パンフレットは、次年度以降の入試における志願者数やオープンキャンパスでの感想などでも推察可能である。今回、卒業生である現職教員や本学名誉教授にパンフレットを送り、意見をまとめた。パンフレットは非常に好評で、今後の受験生数拡大に貢献できると期待している。

- 中学校家庭科教員（男性）から、工業高校に工業科の女性教員がいることに大変驚いた。技術・家庭科教員におけるジェンダーフリーの実情がよく分かるので、今後の職業教育の一資料としても有用であるとの意見をいただいた。さらに、現場では自分自身はジェンダーフリーのつもりでも、周囲はそうにみないことが多く、苦勞することもある。男女比がアンバランスな教科において、少数派教員として勤務することの大変さも合わせて理解してもらいたい、との意見をいただいた。
- 本学名誉教授（技術科教育）からは高校生に新しい視点をもたらし、配布効果が大いに期待できるパンフレットである、とのコメントをいただいた。普通科高校だけでなく、工業高校などにも配布し、技術教育コースの受験生拡大を目指すとともに、中学校における職業教育にも役立ててもらえるよう、配布してほしいとも言われていた。以上をまとめると、中学校における職業教育の資料としての有用性を新たに見出すことができたので、次年度以降に中学への配布も検討したい。
- 高校家庭科教員（女性）からも広報用パンフレットとしては大学のカリキュラム紹介などにとどまることのない内容のもので、キャリア教育の資料として活用できるのではないかとの意見をいただいた。

4 今後の予定

今後、家政教育コースの広報用パンフレットおよびWEBサイトに家庭科における男女比の不均衡を改善できるような記事をいれてそれらを完成させること、今回、成果物として作成した技術・家庭科の広報用パンフレットを高校に持参して高校生の意見をうかがうこと、を予定している。可能な限り、本学における「教職入門」のような授業でも活用してジェンダーフリーな教員の育成を目指す。

＝謝辞＝

最後になりましたが、本広報事業の遂行に際してご支援いただきましたことを深謝します。ありがとうございました。